

明治十六年頃大いに増殖改善されたが、

明治三十六年頃、甲武鉄道敷地のため支障となり、このつつじを日比谷公園に五百円程度で売った。以来、大久保町は住宅地として発達したが、住宅街の地主さんには元の花屋さんが多かったという。

その後は樹林の間にくまなく建つ、二階建ての瓦の屋根続きの平面住宅街であった。東大久保や西大久保の南部は、賑やかな商店街となつて、省線「新大久保」か「大久保」の駅に降りて北に入ると、すぐそこが戸山ヶ原であった。

■戸山ヶ原から戸山団地

戦前の戸山ヶ原については子供時代になつかしい思い出をもっている人が数多いと思う。明治三十一年八月に、陸軍省が民有地を購入して、戸山ヶ原と呼んだ軍用地であった。

高低起伏がある地形で、山手線の近くはナラ材、西北部はマツ・クヌギなどの雑木林、その他は一面の草原で軍隊の使わない時は学校の遠足や、家族連れのお散歩、学生や会社の野球、蹴球などで賑わった。冬に雪が降れば、にわかにはスキ

ー練習場になった。

子供の頃には、今は買わなければ手に入らないカプトムシやサイカチなどをつかまえるのに夢中になったり、大きな木の下でのママゴト、ハンモックをつつて遊んだり、今思えば子供の天国であった。戦後政府は野球場にする計画をたてたが、占領軍から集団住宅地として適当と指示され、昭和二十四年から建設されて団地となったもので、戦後団地の第一号である。

■射撃場跡と日本初の飛行機実験場

前の西大久保四丁目全域は明治七年に陸軍省用地となり、近衛隊の射撃場が開設された。

明治四十三年三月、日野熊蔵陸軍大尉が自分で製作した日本最初の飛行機を、自分で搭乗して実験したのもここである。わずか二百メートルの狭い射撃場に見物人が押しかけたので、滑走には成功したが飛行しなかった。日本最初の飛行ができたのは同年十二月十九日、代々木練兵場での飛行実験の時である。

■村から町へ

天正十八年

小田原城が落城し、徳川の領地となる。

天正十九年

東大久保村と西大久保村に分かれる。

慶長七年

西大久保村の西部が百人町となる。

明治二十二年

町村制度施行で東大久保村、西大久保村、大久保百人町が合併して大久保村となる。

大正元年

大久保町と改称し大久保百人町は百人町となる。

昭和七年

淀橋区となる。
東大久保は東大久保一〜三丁目となる。

西大久保は一〜四丁目、百人町は百人町一〜四丁目となる。

昭和二十二年

三月に新宿区となる。
(山本恭子記)

参考文献

- 「新宿区の昔と今」芳賀善次郎著
- 「新宿の散歩道」「新宿区町名誌」
- 「東京ふるさと文庫2」